

教育相談課だより No.12

学校再開に向けて③

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、想定外のことが起きる中、一般社会の中で起きていることをヒントに学校再開に向けての留意点を、教育相談的な視点で考えてみたいと思います。

厚生労働省から新しい生活様式が示されました。それによると、“人との間隔は、できる限り2m（最低1m）空ける”“遊びに行くなら屋内よりも屋外を選ぶ”“会話をする際は、可能な限り真正面を避ける”等々、様々なことが示されています。早速、スーパーやコンビニエンスストアでは、レジに並ぶ際の位置が表示され、飲食店でも椅子を間引いたり、アクリル板を設置したりと、対策が進んでいるようです。学校でも再開にあわせて、いわゆる“3密”にならないような工夫をされているのですが、児童生徒の成長の場である学校では、様々な課題があるように感じます。



密接回避

〈パーソナルスペース〉

例えば、“人との間隔は、できる限り2m（最低1m）空ける”です。いわゆる“ソーシャル（フィジカル）ディスタンス”と呼ばれるものです。学校では、様々な場面で他者と関わり合いながら生活をしています。物理的に机の間隔を空けたり、手洗い場などに立ち位置を表示したりして、間隔を空けることはできるかもしれませんが、そうした取組でソーシャルディスタンスを意識化させることもできると思います。しかし、人間関係を築く上では考えなければならないことがあります。

そもそも、人にはそれぞれ心地よい他者との距離感があると言われています。“パーソナルスペース”です。“パーソナルスペース”とは、「身体の周囲の心理的な縄張り空間。他人が侵入すると、心理的な不快感が起こる。空間の大きさは、状況・対人関係・心理状態などによって変化する。」（大辞林）と説明されています。成長段階で、こうした距離感を感じ取る感覚を磨くことは、社会生活を送る上でも必要になると考えられます。

“必要以上に近づかない”“マスクで表情が読み取れない”など、集団生活をする中で難しい状況で、いかに児童生徒を育てていくか、教師としても新たな視点で、考えていかなければならない時代です。

茨城県教育研修センター教育相談課で行う本年度からの研究では、マスクをした状況も想定した相手の感情を推し量るスキルにも着目しています。